



3月定例会

会期 2月22日～3月20日



小谷小学校屋内運動場（3月12日完成）

本定例会では、市長提出議案として、条例案、平成十八年度一般会計および特別会計補正予算案、十九年度予算案など四四件、議員提出議案二件が提出されました。それぞれ慎重に審議した結果、原案のとおり可決しました。また、七会派による代表質問があり、さらに一般質問は、四日間にわたり二十九人の議員が市政全般について活発な議論を展開しました。

主な議案の内容

条例等

例 鴻巣市副市長の定数を定める条例

(新)

地方自治法の改正により、助役の名称が副市長に変更となり、定数を条例で定めるもので、県内における鴻巣市と同規模の市の定数の状況から判断し、一人としました。

なお、副市長の役割は、長命を受けて政策及び企画をつかさどり、長の権限に属する事務の一部について委任を受け、その事務を執行することです。

これにより、事務の委任の範囲は、非常に幅広くなります。

以上のことから、事務方で行いつるレベルを超える高度な政

策判断及び、これに関連する重要な企画など、今までの助役より一歩踏み込んだ判断と事務処理ができることになりました。

鴻巣市副収入役設置及び定数条例を廃止する条例

収入役を廃止し、会計管理者として一般職の職員を置くことになり、条例の廃止をするものです。会計事務の電算化が進んだことから、収入役制度が見直しされました。

鴻巣市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

学校嘱託医のうち眼科及び耳鼻科については、児童生徒数に見合う医師の配置に不均衡が生じていることから、報酬額を引き下げ、新たに児童生徒数に合わせた加算を設けるものです。また、内職相談員について、職員による対応が十分可能であると判断し、廃止するものです。

鴻巣市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

人事院の給与勧告で出された

公務員給与構造改革に伴い、条例を改正するものです。

給与表を国家公務員俸給表に合わせ、現行の給料表から切り替えるものです。

鴻巣市難病患者手当支給条例の一部を改正する条例

手当の支給の対象者について、埼玉県特定疾患等医療給付事業実施要綱、または埼玉県小児慢性特定疾患医療給付事業実施要綱に準じた運用とするため、改正するものです。

鴻巣市都市公園条例の一部を改正する条例

上谷総合公園にテニスコートとサッカー場が整備されることに伴い、それぞれの使用料を定めるものです。

鴻巣市消防団条例の一部を改正する条例

埼玉県市町村総合事務組合の設立による市町村消防団員等公務災害補償条例の制定に伴い、公務災害補償等の額及び支給方法について、引用条例を改めるものです。



平成十九年度予算

反対討論

賛成討論

平成十八年度補正予算

一般会計補正予算（第五号）では歳入歳出それぞれ五億七千九百七十九万円を増額し、補正後の予算総額は三十三億六千九百五十万円となりました。

主な内容として、歳入では障害者自立支援法の施行に伴う予算の組替えや、児童手当や児童扶養手当の支給見込みにより負担金を精算するもの、国の補正予算に伴い市街地再開発事業補助金と合併市町村補助金を追加などするものです。

歳出では、合併市町村補助金の活用による行政評価システムやコミュニティバスの導入、本町コミュニティセンター、市民センター改修費用の追加、今後の財政運営を考慮して財政調整基金への積立金など計上します。

また同じく、合併市町村補助金の活用による道路改良工事の追加や、市街地再開発事業補助金による鴻巣駅東口A地区市街地再開発事業補助金の追加などを行うものです。そのほか、特別会計（六件）と水道会計予算の補正が行われました。

十九年度の一般会計予算は、三十三億九千七百万円となり、前年度に比べ、金額で二億八千一百万円、率にして八・三パーセントの増となっています。予算の特徴は、「積極型の予算」「財源活用型の予算」「経費節減型の予算」です。

積極型では、鴻巣駅東口A地区市街地再開発、三谷橋大間線街路、北鴻巣駅西口土地区画整理、吹上駅北口駅前広場整備、工業団地通線整備、広域循環バス運行、上谷総合公園整備など、大規模事業への取り組みを本格化させています。財源活用型では、合併特例債やまちづくり交付金の活用を最大限に図っています。経費節減型では、歳入歳出見直し作業を実施し、担当各部の歳出削減方策の提案により、経常経費を徹底的に節減しています。

十九年度の一般会計予算は、前年度に比べ、二億八千一百万円増で、増額分の九〇パーセントは建設事業費です。この「積極型の予算」の多くは鴻巣地域の継続事業で、吹上・川里地域の整備予定事業は含まれていません。市長は、常に三地域の均衡ある発展と述べていますが、鴻巣地域優先の予算です。

福祉・教育では、税制改正等により、障害者の手当や生活保護費などに影響が出ています。社会福祉協議会補助金は昨年度に比べ一三〇〇万円カット、地域福祉事業は二三〇万円削減、保育所や小学校の給食調理の委託化が進められています。また、耐震工事では一定の前進は見られるものの、吹上中学校の早期改築など、一層の推進が求められています。さらに、市民プールについては閉園の方向が示されました。市民の要望に背を向ける市の姿勢に問題があります。以上のような理由から反対とします。

市長は、十九年度の施政方針のなかで、市政の基本目標を合併後新しく誕生した鴻巣市の土台を築くことにあるとしています。十九年度予算は、第五次総合振興計画をスタートさせる予算です。編成に当たり様々な新しい方法を取り入れ、総合振興計画や新市建設計画が掲げた将来都市像の実現に向け、厳しい財政状況や、各地域の住民ニーズを的確に捉え、速やかな一体性の確立と均衡ある発展を目指しています。市長が基本目標としている「生活満足度、住民参加度、行政効率度」の向上を図るため、効率的かつ積極的に取り組んだ予算です。

具体的には、三駅を中心とした大規模事業に取り組み、歳入歳出見直しにより徹底的な経費の節減に努めています。まさに、「積極型の予算、財源活用型の予算、経費節減型の予算」と呼ぶに相応しい、将来を見据えた予算編成に取り組む姿勢が認められ、賛成するものです。